

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	リサーチツールとしての英語		
英文授業科目名	English As a Research Tool		
開講年度	2007年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-情報工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報工学専攻		
担当教官名	佐藤 美弥子		
居室	東1-615		

公開E-Mail	授業関連Webページ
satoh@cs.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>研究に必要な英語力とは、</p> <p>(1) 文献を正確かつ迅速に読みこなす読解力 (2) 理路整然とした論文を、単純明快な文章を論理的に構築することによって、書く能力 (3) 口頭発表時のプレゼンテーション能力 (4) 質疑応答力、即ち、質疑応答に必要な聴解力と発言力</p> <p>から成る。上記の諸能力を総合的に作動させられるようになれば、英語を a research tool として掌握したと言える。</p> <p>(1)と(2)とを培うために、[A] 以外の受講生は、前学期に、佐藤美弥子担当・学部科目「Academic Spoken/Written English I」（前学期・週二回の集中講義）を受講し、後学期に、「同II」（後学期・週二回の集中講義）を、大学院科目「リサーチ・ツールとしての英語」と平行して、受講すること。そうすることによって、学部授業で基礎を固める「読む」かつ「書く」能力を、大学院授業では、実践訓練を通して、強化する。</p> <p>注：[A] 学部一年次（2003年度）に佐藤担当「英語 A, B, C, D」を履修した者</p> <p>「聴く」「話す」力は、「読む」「書く」力が伴わない場合、illiterate のレベルに留まる外なく、逆に、「読む」「書く」力が充実していると、「聴く」「話す」力は目覚ましく伸び得る。上記(3)と(4)の開拓 充実にあたって、当授業では「リサーチ」を「プレゼンテーション」へ直結させる「リサーチ・ノート（電子ノート）」の作成方法を伝授すると同時に、そこに組み込まれた「音声読み上げソフト」と「音声入力ソフト」を駆使し、週一回・一学期間の授業時間内では不足する「聴く」「話す」力の訓練を自ら行なえるよう指導する。</p>
--

電気通信大学 平成19年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

2007年度生の場合、学部一年次（2003年度）に佐藤が担当した「英語 A, B, C, D」。それらを履修していない者は、上記 [主題および達成目標] を参照し、指示に従うこと。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】

handouts

【授業内容とその進め方】

[主題および達成目標] 参照

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席（欠席回数が総授業回数の三分の一を超えると失格）、授業中の活動、提出物、期末課題 を成績評価の対象とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。授業終了後が不都合な場合は、担当教員と学生双方に都合のよい日時。

【学生へのメッセージ】

【その他】

月曜日4時限目から6時限目へ授業を移す可能性あり。相談に応じるので、履修希望者は、このシラバスを読んだ時点で、satoh@cs.uec.ac.jp へ連絡を。